

# 大牟田市立中友小学校

## 1 本校のESDの特徴

大牟田市では、『「共生社会の構築」、つながりを理解し、かかわりを深める児童生徒の育成』を重視している。この基本的な考えを受け、一人暮らしの高齢者が多い校区の特色を踏まえ、児童が校区民生委員と一緒に高齢者宅を訪問したり、地域包括支援センターが実施する徘徊SOSネットワーク模擬訓練に参加したりしている。また、校区内に和菓子屋さんが多いという点も地域の特色であることから、饅頭の歴史を調べたり、実際に作ったりする活動を通して、地域への関心を高め、他者との関係性・社会との関係性を認識し、「つながり」や「かかわり」を尊重して、地域に対して自分たちにできることを考えたり、実践したりする児童を育て、共生社会の構築を目指す取組を推進している。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

生活・総合的な学習の時間を中心にした取組【福祉教育】

- ・ 1年生(生活科)……「友だちや身近な人たちとなかよくなるよう」
- ・ 2年生(生活科)……「あそび大すき、あつまれ」
- ・ 3年生(総合)……「心の目を育てよう」「保育園の子どもとふれ合おう」
- ・ 4年生(総合)……「大牟田よかところPR！子ども世界遺産まんじゅうをつくろう」  
「二分の一成人式をしよう」
- ・ 5年生(総合)……「お年寄りとふれ合おう～子ども民生委員活動を通して～」
- ・ 6年生(総合)……「高齢者福祉について考えよう」

※関係機関との連携…地域の民生委員、公民館連協、福祉関係機関、教育関係機関  
校区内の和菓子屋さん

## 3 特徴的な活動事例

< 4年生「大牟田よかところPR！子ども世界遺産まんじゅうをつくろう」  
(総合的な学習の時間28時間) >

### (1) 目標

- ①大牟田の饅頭について関心を持ち、課題を見出すことができる。(問題設定の能力)
- ②饅頭に込められた和菓子屋さんの思いや饅頭作りのポイントを生かしながら、饅頭のアイデアを話し合うことができる。(課題解決の能力)
- ③地域の良さを伝えられる饅頭(商品)にするために、友だちだけでなく、地域の和菓子屋さんにもアドバイスをもらいながら、協同して課題に取り組むことができる。(主体的・協同的・創造的態度)
- ④「子ども世界遺産まんじゅう」作りを通して、地域の良さを発信し、地域への関心を高めるとともに、自分たちにできることを考え、実践していくことができる。(自己の生き方)

### (2) 実践の展開

- ①大牟田のまんじゅうについて調べよう……課題をつかみ計画を立てる。(5時間)
  - ・自分の課題を持ち、課題ごとのグルーピングを行い、調べる。
- ②グループごとに、世界遺産まんじゅうのアイデアを考える。…調べる(8時間)
  - ・和菓子屋さん見学、カステラ饅頭作りを体験する。

- ・饅頭に詰められた和菓子屋さんの思いや願いを知り世界遺産まんじゅう作りへの意欲を高める。
  - ・大牟田市の良さについて考える。(地域学習「世界遺産」)
- ③大牟田市の良さを伝える「世界遺産まんじゅう」のアイデアをグループごとに考える。…… (8時間)

- ・和菓子屋さんへ自分たちのアイデアや思いを伝え、具体的にどんな饅頭になるか、助言を聞く。
- ・和菓子屋さんから試作品を発表してもらう。



中友小学校発  
「子ども世界遺産まんじゅう」

**ア 宮原坑(やぐらまんじゅう)**

白あんにチョコチップ(石炭)  
やぐら(ビスケット生地で)  
赤い煉瓦は羊羹で

**イ 電気機関車炭鉱鉄道まんじゅう**

赤い電車のイメージ(ピンク)  
あんは、上内みかんを使って  
饅頭の型抜き→電車の形

**ウ 三池港はちどりまんじゅう**

海の色(青)、石炭(黒)



地域の商店街で販売(12/10)

5分で完売し、大盛況

- ④大牟田の良さを発信し学習のまとめをする。… (7時間)
- ・世界遺産まんじゅう販売の準備、販売
  - ・学習のまとめ

(3) 本実践の成果と課題

- 地域学習として、「まんじゅう作り」を教材化した昨年度の実践を踏まえ、今年度は大牟田市の良さを伝えるために「子ども世界遺産まんじゅう」を考え、販売する計画を立てた。地域の商店街で、十日市の日に販売したことは、大きな注目を浴び、子ども達だけではなく、保護者・地域の方の郷土への関心をも高めることができた。
- 我が町「大牟田」の良さを発信したことで、子ども達が郷土への誇りをもつことができた。
- 校区の和菓子屋さんとの連携が強化できた。
- まんじゅう販売・コスト面も含めて、学習の進め方を見直す必要がある。
- 本校の特色を生かした教材化(学年間のつながり)の工夫。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・それぞれの学年で、昨年度までの取組を継続したり、新たに学習内容を変えたりして、教職員の共通理解のもと全学年でESDを実践することができた。その中で、地域の方との連携(校区民生委員・和菓子屋さんなど)が強化された。
- ・地域の方々と関わる機会が多くなり、校区や大牟田市内の行事への自主的な参加が増えてきた。

○課題

- ・地域・他校への発信の仕方の工夫。
- ・身に付ける力を明確にした学習の進め方と評価。